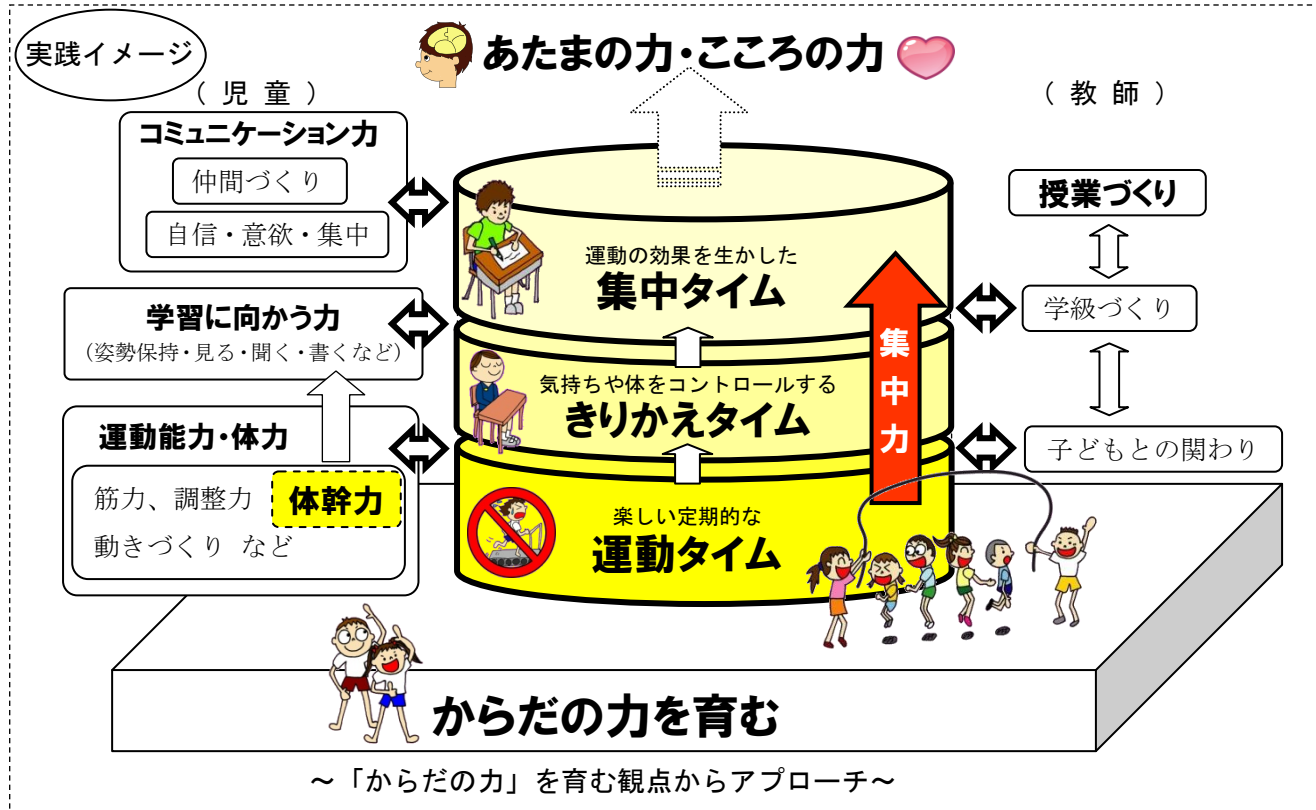


運動と学習をセットにした豊岡モデルのねらいと実践イメージ
 ～夢実現力を支える 20 分間の豊岡モデル～

ねらい

楽しく運動することは「からだの力」だけでなく、「あたまの力」や「こころの力」を高める可能性を広げることが分かった。豊岡市では、運動と学習をセットにした豊岡モデルの実践を、学びに集中できる子どもの育成につなげ、夢実現力(なりたい自分になるためにがんばりぬく力)の育成を支える取組とする。

「からだの力」を育む観点からアプローチし、「あたまの力」を高めることにつなげる



～豊岡市教育の中心課題～

- 不登校児童生徒数の増加
- 確かな学力の定着
- 特別な支援が必要な子どもたちへの教育的ニーズに対応する問題

夢実現力(なりたい自分になるためにがんばりぬく力)を子どもたち一人一人に



〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2番4号

豊岡市教育委員会 児童教育課 TEL 0796-23-1452 FAX 0796-24-4669
 こども育成課 TEL 0796-29-0053 FAX 0796-29-0054



豊岡の保幼小がつながる教育

運動と学習をセットにした豊岡モデル

概要版



兵庫県豊岡市教育委員会



楽しく運動することは「からだの力」だけでなく、 「あたまの力」や「こころの力」にもつながります

豊岡市では、子どもたちが「心」も「体」も健やかに成長できるよう、全国でも先駆的に、幼児期における運動遊び事業を積極的に推進・展開しています。

これまでの、就学前における運動遊び検証では、「楽しく運動した後は集中力が高まりやすい」ということが分かりました。(右欄参照)

そこで、豊岡市の小学校では、就学前から継続して、運動習慣の定着化を図るとともに、この検証結果を生かし、「からだの力」を育む観点からアプローチし、「あたまの力」を高めることにつなげていく取組を推進・展開していくこととしました。その具体的な取組として「運動」と「学習」をセットにした『豊岡モデル』を、平成28年度から本格実施し、就学前と一体となる教育施策を展開していくこととします。

～楽しく運動した後、気持ちや体をクールダウンすると、 集中力が高まりやすくなることが分かっています～

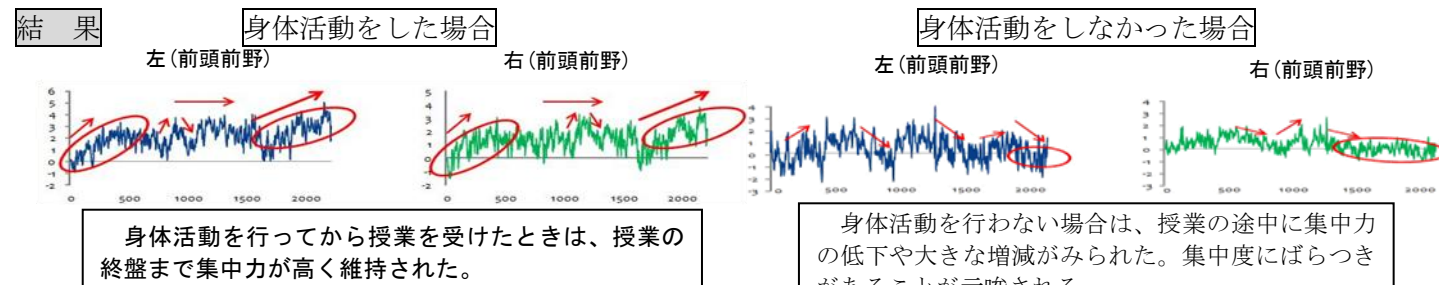


みんなで楽しく笑顔でジャンプ



授業中の様子

【対象】 市内小学校3年生の女子1名 (H26年度)
【方法】 授業の脳活動を測定して、集中度を評価する。
【身体活動】 2時間目の終了後、業間に約15分間の身体活動を行った。
【脳活動の測定】 その後、3時間目(45分間)の授業中の脳活動をNIR0100(浜松フォトニクス, Japan)を用いて前頭前野(※)の局所脳血流量を継続的に測定した。 ※前頭前野…集中力を司る領域



身体活動を行ってから授業を受けたときは、授業の終盤まで集中力が高く維持された。

身体活動を行わない場合は、授業の途中に集中力の低下や大きな増減がみられた。集中度にばらつきがあることが示唆される。

今回紹介しているのは、小学校児童1名ですが、平成23年度、同様の調査を幼稚園5歳児18名を対象に実施しており、ほぼ同様の結果が出ています。

運動と学習をセットにした豊岡モデル・3つの要素とその流れ

(本内容はH25.3.9に提案した「豊岡の教育スタイル」を焦点化し、より取り組みやすくしたものです。) ※各タイムの脳画像はイメージです。

1 運動タイム

全身運動を通して、脳全体を活性化

「脳」と「心」と「身体」のウォーミングアップ
覚醒度と快適度をアップ

クラス全員が楽しく取り組める
運動を10分程度実施しましょう。

運動内容や強度は特に定めませんが、クラス全員で、週に1～2回程度、楽しく運動しましょう。



～実践事例～

時間 朝の時間、業間、昼休み
場所 教室、ワークスペース、運動場、体育館
内容 (1) 集団長縄跳び (2) ダンス
(3) 豊岡市版小学校体育準備運動 など

～関わりのポイント～

- ・笑顔で
- ・子どもの心に寄り添い
- ・一人一人に認める(ほめる)声かけを

2 きりかえタイム

学習に向けて、脳全体を沈静化

望ましい学習状態をつくるために、運動で覚醒した脳・心・体をクールダウン

運動で高まった脳活動や気持ちをクールダウン
させる意識をもって、実施しましょう。

運動した直後は、時として興奮が冷めず、その後の活動において、かえって集中しにくくなる場合があります。首から下の筋活動をできるだけ避け、「動」から「静」へ移行する、静かな活動や時間を設けましょう。

～実践事例～

- (1) 黙想1分 (2) 読書5～10分
- (3) 静かな音楽を聴く など



3 集中タイム

集中力を司る脳部位を活性化

必要な情報のみを獲得し、不必要な情報を遮断する、
集中力を司る脳の部位を活性化

「あたまの力」を意識した取組を実施しましょう。

きりかえタイムを経て、集中しやすい状態になっています。また、この活動自体が集中力をさらに向上させることにもなるので、子どもが主体的に取り組む、集中・判断・記憶・持続力などを意識した「あたまの力」につながる活動を実践してみましょう。



～実践事例～

- 基礎・基本の時間として
- (1) 漢字・計算ドリル
 - (2) 5分間作文
 - (3) 視写
 - (4) 塗りつぶしゲーム
 - (5) イラストゲーム
 - (6) クレペリン など

～関わりのポイント～

- ・メリハリのある声かけを
- (不必要な情報は省き、指示・指導事項を明確にする。)

朝の時間の実践例

時刻	内容
	登校 学習の準備
8:15	運動タイム ↓ きりかえタイム ↓ 集中タイム
8:28	朝の会
8:35	朝の会
8:45	1時間目

業間の実践例

時刻	内容
	2時間目
10:20	運動タイム ↓ (自由遊び) ↓ きりかえタイム ↓ 集中タイム
10:38	集中タイム
10:45	3時間目